



キャンパス総合グランドの改修工事が完了した。今回の改修工事は「魅力ある大学、選ばれる大学」をめざし本学とステークホルダーとの連携をより深める為に進められている事業計画の一環として本年1月から工事が行われていたものである。

野球場・ラグビー場の完成に伴い、本学のスポーツ強化種目である「硬式野球部、ラグビー部」の活動を県内外にアピールすることで、体育会主催(会長:大友克之)による完成披露式典並びに記念ゲームが行われた。愛知大学野球リーグ1部春季優勝校の中北部大学や県内外の野球関係者を招き開催された野球場披露式典では、後藤寿彦元日本野球代表監督から本学野球部の小川信幸部長に「記念ボール」が手渡され式典を大いに盛り上げた。

また、ラグビー場では、関東大学ラグビーリーグ所属の強豪チーム立正大学を迎えて本学ラグビー部との熱



エリアごとに濃淡をつけた人工芝のラグビー場



「記念ボール」が手渡される



中堅120mの野球場（外野は人工芝）

戦が繰り広げられた。全面人工芝となった野球場、ラグビー場、サブグラウンドやフットサルコートなどはどれも「すばらしい」の一言につきる。この新生

グランドにおいて近い将来、「全国制覇」を成し遂げてくれるアスリートたちが誕生することを願ってやまない。

「朝日大学のマーチャンダイジングについての考察」  
朝日大学の魅力を高校生に訴求し、企業をはじめとする地域との連携を図るために「方法」をテーマに、産業情報研究所主催の研究会が開催され、多くの教職員が出席し「魅力ある大学づくり」を学んだ。

講師の金剛寺明氏(KA)は、企画事務所代表)は、市場環境の変化の中で、大学が「識別」「品質保証」「法人目的」といった関係者(ステークホルダー)に対する理解の段階を意図的につくりあげることにより、関係者の大学に対する理解も「認知」「信頼」「愛着」へと深まると指摘し、その実現

## 産業情報研究所が研究会を開催 「魅力ある大学づくり」を学ぶ



参加した教職員は講演に熱心に聞き入っていた

## 「歯科大学学長・歯学部長会議」が本学主管で開催

「2008年度歯科大学学長・歯学部長会議」が6月20日(金)に岐阜市内の岐阜都ホテルを会場として開催された。

この会議は、毎年国公私立歯科大学・歯学部が交代で主管大学となり開催されているもので、本年度は朝日大学が主管大学を務めて



田村歯学部長が議長となり会議が進行された

の開催となった。会議では、文部科学省高等教育局医学教育課の三枝課長補佐から「歯学教育の現状と諸課題」と題して講演があり、その後、本学の田村康夫歯学部長を議長に、各大学から提出された議題について活発な討議が行われた。全国的な歯学部志願者減少、入学定員の削減、歯科医師国家試験合格基準の引き上げなど歯科大学、歯学部を取り巻く情勢が年々厳しくなっている状況下で各大学ともさまざまな課題を抱えており、出席者からは課題や取組について熱心な意見交換がなされた。議題の多くは常設委員会に付託され継続審議事項となり、開催された。

法医学部では、岐阜地方検察官の河田好平検事を招き、穂積キャンパス5号館講義室で特別講義を実施した。

大野正博法医学部教授が「デイネーターとなり、受講学生たちを前に河田検事から、2009年5月から始まる「裁判員制度」について最高裁判所、法務省や日本弁護士会連合会が作成したりーフレットを用いて、裁判員に選ばれるまで、裁判員に選ばれてから、実際の裁判では」など順を追って分かりやすく詳細な講義がなされ、出席した学生たちは「裁判員制度」への理解をより一層深めていた。

また、特別講義では、強い正義感と使命感により良い社会の実現に向けて日夜貢献している「検察官」の組織概要、刑事事件の流れ、被害者支援などについての講義も行われた。いわゆる「現場の声」を直接聞くことができた今回の「特別講義」は法律を学ぶ学生にとって、大学生生活の中でも貴重な体験となつたようである。

## 【裁判員制度】を授業で学ぶ

### 法医学部特別講義を実施

した。さらに、大学の持つ豊富な資源を生かしつつ地域社会との連携の成果を高めるためには、組織の整備

が重要となることも研究会の中で強調した。今回の研究会は、テーマ

な問題であることもあり、講演終了後、講演内容に関する熱心な質疑応答が続いた。



河田好平検事による特別講義

本会議終了後には、同ホ

テル内で本学歯学部の教授

も加わり、懇親懇談会が開催され、会場内は参加者の

うちの有意義な情報交換の場となつた。

「病院ボランティア」公開講座が、朝日大学歯学部附属村上記念病院の講義室にて開催された。

## 「公開講座」を開催

本院で実習を受けている専門学校生、看護師をはじめ本院職員も参加し「ボランティア活動の意義と目的」を改めて理解する有意義な機会となつた。

# 新しい自分を再発見

補助やイベント開催時の補助等、院内ボランティアとして外来ホールを中心で活動している。今回の公開講座は、ボランティア活動への一層の理解とその活動の底辺を広げるため、本院ボランティア支援室の主催で開催された。

当日は、岐阜市社会福祉協議会の久松定昭氏から、「ボランティア活動との出会い」と題して、自らの体験談を取り入れながらボランティアの四原則について講演が行われた。その後、本院でボランティア活動に従事頗つてている岐阜市ボランティア連絡協議会会长の



「デンツプライ賞」を受賞した  
市橋助教(田村学部長と共に)

「デンシップライ賞」を受賞

どの報告が各々なされた。



ボランティア活動への理解が深まった

## 歯学部海外研修を実施

## 海外4カ国で研修

海外の医療の現場を知る絶好の機会といえる。  
今回の学生派遣にあたり壮行会が7月22日(火)に穗積キャンパス内ホールのサンライズで、田村康夫歯学部長、藤原歯学部国際交換部長、藤原歯学部国際交換部長である。研究結果では、咀嚼機能の維持や咬合不調和の改善は海馬機能(記憶能力)の維持に重要な可能性を示唆しており、歯科医療の重要性が脳科学的にも証明され、このことが高く評価されたものといえる。  
今後における市橋助教の教育研究活動が多いに期待される。

# 本学歯学部では、国際的な視野を持ち、幅広く活躍できる歯科医師を育成するため、毎年夏季休業期間等を利用した学生の「短期海外研修」を実施している。5年生を対象とした海外研修の費用は全額大学で負担しており、学生にとっては、

## 歯学部海外研修を実施 海外4カ国で研修



宮田値理事長が「法人・教学部門協議会」で挨拶

# 2009年度「認証評価」に向けて 「法人・教学部門協議会」を開催

に移してきている。

あり、2004年度からへての大学・短大等は、教研究水準の向上に資するめ、教育研究・組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、7年（以内）ごとに文部科学大臣が認証する評価機関の実施する評価を受審することが義務づけられている。

認証評価の趣旨及び目的等について説明がなされると共に、「自己評価報告書」の作成にあたっては、当該報告書が広く社会に公表されること等を念頭に取り組まれたい旨の挨拶がなされた。出席した各委員たちは来年度の「認証評価」における全学が一丸となり取り組むべき課題であることを再認識した。

今後は、全学及び各学部等で「自己点検・評価実施委員会」が、また、「法人・教学部門協議会」が定期的に開催され、「認証評価」に向けた各種取り組み等が確認されていくこととなる。

ようである。  
なお、詳細な研修報告は  
次号を予定。





田村歯学部長から壮行の言葉を受ける研修生たち

## 診療科紹介

## 「乳腺外科」とは

命も乳房も失わない乳癌治療

本学歯学部では信頼性の高い医療と予防医学の実践により地域社会への貢献を果たしている。

第3回目となる「診療科紹介」では、附属村上記念病院（所在地：岐阜市橋本町）「乳腺外科」の取り組みを乳癌診断法の権威である樺木良友教授から紹介願うことにする。

命も乳房も失わない乳癌治療

上流で「ラフティング」をして鵜飼有名な長良川の

チームでボートに乗り急流など変化に富んだ河川を下るスポーツで、まさに「チームワーク」が不可欠な競技である。

経営学部ビジネス企画学科では、学外研修の一環として鵜飼有名な長良川の上流で「ラフティング」を実施した。

「ラフティング」とは、チームでボートに乗り急流など変化に富んだ河川を下るスポーツで、まさに「チームワーク」が不可欠な競技である。

今回の研修は、ラフティングを通じてチームワークの重要性を体感、組織による共同作業を疑似体験することにより、学生間のコミュニケーション能力の向上に役立てようとした企画された学外研修であった。参加した学生たちは、激流をチームワークで無事乗り越え、緩流

## ラフティングを体験 チームワークの大切さを学ぶ

では全員でオールを一心に漕いだりし、ラフティング体験でこれまで以上に連帯感を高めたようであった。



スリル満点のラフティングを体験

## 図書館の利便性が向上 日曜・祝日も開館（本館）

「魅力ある大学」をめざす朝日大学では、穂積キャンパス内の図書館（本館）が、学生及び教職員の教育研究活動をより一層支援するため、2008年8月から日曜・祝日も開館することとなつた。

本学図書館では、これまで蔵書数約30万冊を有するところとなつた。

この声も寄せられて

いる。当科は、このよ

うな乳癌を巡る今日の日本女性の医学的、社会的ニーズに対応する必要から、設置された新分野の診療科である。

△診療科の成り立ち▽  
当科は6年前に本院に開設された、主として乳癌を専門とする比較的新しい分野の診療科である。

最近の医療統計によると、30才～60才代の女性が罹患する種々の癌疾患の内、乳癌が第一位を占め、年間3万人以上の女性が乳癌に罹患している。しかも年々乳癌罹患率は上昇しており、年齢的には低年齢化の傾向にあるという。しかし現段

症状の早期乳癌が高率に発見されている。

またこのような症例では命の安全を確保し、かつ女性としての審美的配慮を加え、乳房を残す乳房温存手術を積極的に行っておりが

ては、乳腺構造の全体像を鮮明に摘出するデジタルマ

ンモグラフィ。ミリ単位の

検診の受診の他、少しでも不安を感じたら専門診療科を受診することが早期乳癌

を発見する重要なカギを握っている。事実そのような

女性並に急増すると予測さ

れる。

受診者の中から、無自覚無



乳癌専門認定医である樺木教授（左）と安部医師（右）

## △診療方針と機能▽

当科が目標とする診療方針は、「命も乳房も失わない乳癌治療」である。この極めて高い目標を実現する

ために、先ず乳癌好発期

の女性自身が、乳癌から身

を守る認識が必要で、定期

検診の受診の他、少しでも

不安を感じたら専門診療科

を受診することが早期乳

癌が疑われるミクロ単位の

微細石灰化像や、小腫瘍組織

を的確に針で採取できる

マンモトーム装置。乳癌手術前に腋窩リンパ節転移の

## △診療体制▽

当科の診療体制は、乳癌専門認定医を中心とした

放射線技師、薬剤師の他、

形成外科専門医の協力を得

ては、乳腺外科

の、最近の乳癌罹患状況

からみて、将来的には欧米

の、まだ低率であるも

の、命も乳房も失わない乳

癌治療が実現可能と考え

ている。

互いのプレーを称え記念写真に収まる

## ハンドボールで国際交流

スウェーデンのクラブチームと対戦

ボルチームの「ダルヘルムズ」一行30名が、全日本男子ハンドボールチーム監督の酒巻清治氏（本学体育会ハンドボール部アドバイザー）のコーディネイトにより来日し、7月1日（火）にサンヨースポーツセンターハンターフィールド内）のコートにて本学体育会所属の「ブルーハンターズ」と対戦した。

交流試合は、岐阜県ハン

ドボール協会、岐阜県体育

協会及び岐阜県高体連関係者、本学学生ら150名の熱烈応援の中、エキサイティングで白熱したゲームが展開された。「ダルヘルムズ」は180cmオーバーの巨漢を揃え強烈なパワーで押すチーム、一方下川真良監督率いる「ブルーハンターズ」は創部一年目の若さ

度に判定可能なデジタルマ

ンモグラフィ。ミリ単位の

も休日の開館を希望する声が寄せられ対応について検討を重ねた結果、日曜・祝日開館が可能となる業務態勢が整ったことから、利便性がはかられることとなつた。

また、本学図書館では、地域社会に貢献することで

平日（日曜・祝日を除く。）の一般開放（閲覧・貸出）も行っており、一般利用者からは「蔵書数や専門書が多く、魅力的な図書館である。」との声も寄せられて

いる。

パ節郭清の要、不要を決定するセンチネルリンパ節検査法など最新の診療機器を駆使し診療にあたっている。

一方当科の診療機能として、乳癌構造の全体像を鮮明に摘出するデジタルマ

ンモグラフィ。ミリ単位の

検診の受診の他、少しでも不安を感じたら専門診療科を受診することが早期乳癌

を発見する重要なカギを握っている。

今後も、本学歯学部附属病院の「診療科」を紹介し、信頼される医療機関、さら

ての役割を担っていく所存である。

シーソーゲームがくり広げられた試合は、最後「ブルーハンターズ」の渾身のシートで24対24のドローとなつた。

ゲーム終了後は、会場を大垣市内のフォーラムホールへ移し、本学主催の歓迎夕食会が行われ、竹内宏副学長のスピーチをスタートアットホームな雰囲気で国語のスピーチをスタートアットホームな雰囲気で国際交流が進んだ。

創部3カ月で早くも国際交流が進んだ。

本学体育会ラグビー部は、各務原市の岐阜自衛隊グラウンドで開催された「第13回ギフセブンズ大会」に出場し、ここで優勝、「6連覇」の偉業を成し遂げた。

ラグビー

「第58回全日本学生フェンシング王座決定戦」において、「女子エペ団体」で「初優勝」の栄冠に輝いた本学体育会フェンシング部の栄誉を讃え、優勝祝賀会が7月2日（水）に本学穂積キヤンパス内の10周年記念館ホール「花水木」において盛大に開催された。

試合すべてで30点以上を奪う圧倒的な攻撃力と、相手に1点も許さない堅守を発揮し、「完全優勝」をはたした。

# 東海リーグ制覇に向けて好発進

**ギフセブノスで  
6連覇!!**

「第58回全日本学生フェンシング王座決定戦」において「女子エペ団体」で「初優勝」の栄冠に輝いた本学体育会フェンシング部の栄誉を讃え、優勝祝賀会が7月2日（水）に本学穂積ギヤンパス内の10周年記念館ホール「花水木」において盛大に開催された。祝賀会では、はじめに大友克之体育会長が挨拶、宮田侑理事長並びに岐阜県体育協会からのお祝いの言葉が披露され、その後、竹内宏副学長による乾杯の発声で一斉にシャンパンでの祝杯が酌み交わされた。祝賀会場内には岐阜県内のスポーツ関係者を含め150名近い出席者が集い本学体育会フェンシング部の初優勝を祝った。

自転車 「学生チャンピオン」3名誕生  
全日本選手権では「日本一」を獲得

本学体育会自転車競技部は、静岡県日本学生選手権大会で7月5・6日の両日に開催された「第49回全日本学生選手権大会」に出場し、みびと「タンデムスプリント」(大場・山田純ペア)と共にビジ

卷一百一十五 本前編 十二年秋七月

また、プロ・アマチュアが出場し6月14・15日の両日に群馬県前橋ドームで開催された国内最高峰の「第11回全日本選手権大会」では、「4km团体追い抜き競走」(井関・ビジネス3年生・横関・ビジネス2年生)に岐阜選抜チームとして出場し、みごと「優勝」の栄冠を勝ち取り「日本」の座に輝いた。

A black and white photograph capturing a dynamic moment during a track cycling sprint race. Five cyclists are shown in mid-stride on a banked track. The cyclist on the far right wears a helmet with the word 'ELITE' printed on it. The background shows the curved stands of a velodrome.



日本一に輝いた岐阜選抜チーム（横開・左端、共開・右2人目） チャンピオンシヤージを贈られる（大場・明珍・山田純）

# 優勝祝賀会を開催

## 「全日本学生王座」を讃える



## 竹内副学長の乾杯により祝賀会が始まる

バレーボール

## 県リーグで 2連覇 [1部]

日本一に輝いた岐阜選抜チーム（左端・井間・右2人目） チャンピオンシップを贈られる（大堀・畠珍・山田純）

ホッケー

## 東海学生リーグでV!!

「東海学生ホッケー」春季リーグが各務原市の岐阜県グリーンスタジアムで開催され、本学体育会ホッケー部は、中京大学、東海学院大学チームに勝利し、と東海学生の王座に輝いた。東海での優勝により「第27回全日本大学王座決定戦」へと駒を進めた本学ホッケー部は、1回戦で東京農業大学を破り、準々決勝では惜しくも関東実力校の明治大学と引き分けたものの、「ベスト8」入りを果たした。

なお、このたびホッケー部の活動をより一層支援するため、全面人工芝の専用ホッケー場内にシャワー室及びビジタールームなどを完備したクラブハウスが完成し披露された。

部)の実力を充分に發揮し、た本学バレーボール部が岐阜大学に競り勝ち優勝トロフィーを手中に収めた。その後「第34回西日本バ

レーボール選手権大会」に出場したバレーボール部は、準々決勝で惜しくも東亜大(優勝チーム)に破れ、「ペスト8」の成績となつた。

